【愛知県】スマート農業×6次産業化で農業イノベーションを創る次世代型農業アントレプレナー人材育成の拠点形成

愛知県立安城農林高等学校
（全日制/農業学科）

別添2

○本県では、高い農業生産力を有する一方で、加工・商品開発・販売による高付加価値化が十分とは言えず、生産力を「稼ぐ力」へ転換できる農業イノベーション人材の育成が課題となっている。また、農業分野の担い手不足や農業高校から農業関連進路への接続の弱さを踏まえ、本県農業の持続的発展を支える次世代人材の育成が求められている。
○この課題の解決に向けて、データや先端技術を活用しながら生産・加工・商品開発・販売・経営を一体的に捉え、新たな価値を創出できるアントレプレナー人材を育成する。
○拠点校では、先端設備、学科横断的な学び、単位制を活用した教育モデルを構築し、その成果を県内農業関係高校へ普及する。

人材育成の現状・課題

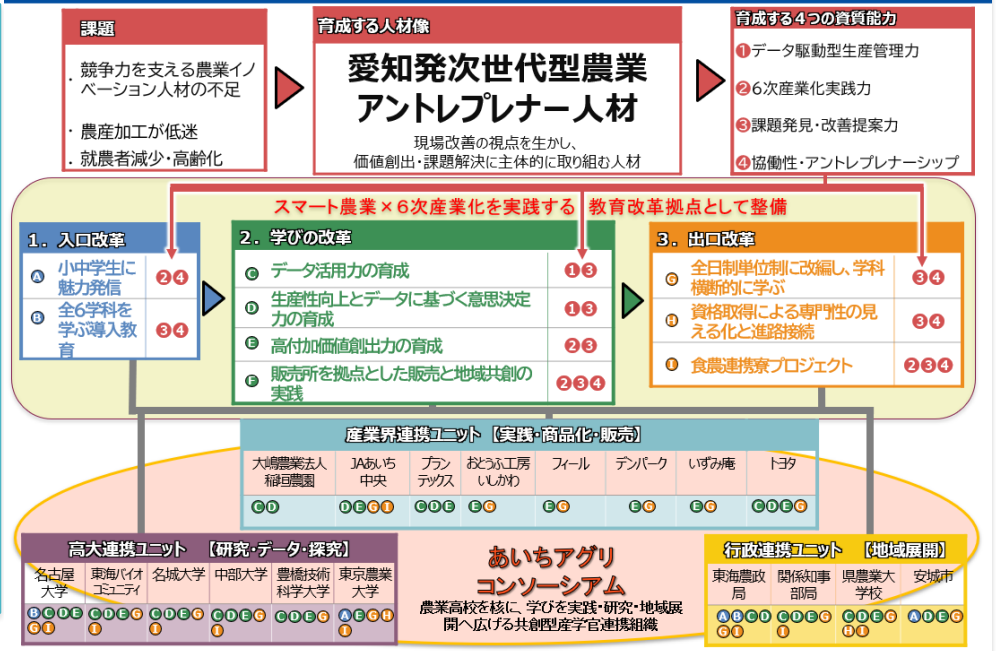
【都道府県における現状・課題】
○ 本県は、都市型農業として発展し、全国トップクラスの施設園芸・花き産地として高い農業生産力と販売力を有する一方、農業経営体の減少や従事者の高齢化が進んでおり、担い手確保と、生産力を高付加価値化につなげる農業イノベーション人材の育成が課題である。
○ 農業産出額は全国有数であるものの、農産加工分野は全国32位にとどまっており、生産力を加工・商品開発・ブランド化等による高付加価値化へつなげる人材育成が求められている。
○ 農業関係高校では、AI・IoT等を活用したスマート農業や６次産業化に対応する施設設備や教育内容が十分ではなく、生産・加工・商品開発・販売・経営を一体的に学ぶ教育体系への転換が必要である。

・第1次産業1.9%、第2次産業32.4%、第3次産業65.7%
・製造品出荷額全国1位、商品販売額3位、農業産出額8位
・農畜産物の生産状況として全国1位が7品目
・施設園芸の施設設置面積全国4位
・年間販売金額では、農産物直売所全国1位、観光農園2位
農産加工全国32位
・県立高校に占める農業高校の割合は5%

具体の事業内容

【拠点における主な改革目標】
データを活用して、生産・加工・商品開発・販売・経営を一体的に捉え、価値創出や課題解決に主体的に挑戦する次世代型農業アントレプレナー人材を育成する。また、産業界・大学・行政等との連携により、実社会の課題を学びに取り込み、就農、農業法人就職、農業大学校・農学系大学進学等へつながる人材育成モデルを構築する
【取組内容・創出するパイロットケース】
（教育改革の内容）
①全６学科を学ぶ導入教育(一括募集)と地域発信(入口改革)　②スマート農業と6次産業化を核とした価値創出人材育成モデルの構築(学びの改革)　③就農・進学・農業関連産業へつなぐ出口戦略の構築(出口改革)・(全日制単位制への改編)
（施設・設備の整備）
スマート牛舎・温室等の先端設備や、各学科の特性を踏まえた高度加工機械・成分分析機器を導入し、生産から高付加価値化までを実践的に学ぶ教育環境を整備する。
【他校への普及方策】
農業教育共同実習所と連携したデータ学習を導入し、その成果を県内農業関係高校８校１校舎の生徒宿泊実習や教員研修で共有するとともに、小中学生や保護者への普及・啓発を図る。
【その他】
寮を「アグリ・アントレコモンズ」として活用した宿泊型学習を実施し、食農連携教育や農業経営者等との交流を通して、農業経営マインドやアントレプレナーシップを育成するとともに、農業の未来を主体的に考え行動できる人材を育成する。

スマート農業×6次産業化で農業イノベーションを創る次世代型農業アントレプレナー人材育成モデル



実施体制

協力校	総合教育センター農業教育共同実習所、農業関係高校８校１校舎
主な連携機関(予定)	名古屋大学、東海バイオコミュニティ、名城大学、豊橋技術科学大学、中部大学、東京農業大学、トヨタ、大嶋農業法人、稲垣農園、おとうふ工房いしかわ、いずみ庵、デンパーク、プランテックス、東海農政局、農水局、県農大、安城市役所、JAあいち中央　等

2040年、安城から世界へ
○ 生産・加工・商品開発・販売・経営を一体化した価値創出により、地域農産物やいずみそうめん等の**地域ブランドの高付加価値化と販路拡大を実現**
○ スマート農業と6次産業化を通じて、**「農家所得の向上」×「担い手の確保・育成」**の好循環を創出